

タイトル「2021年度 人間学部」、フォルダ「大学 人間-児童発達学科」  
シラバスの詳細は以下となります。

科目名	発達心理学 I		
英文科目名	Developmental Psychology I	他学部他学科履修可否	○
担当教員	加須屋裕子		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	1
講義室	W-303	開講学期	前期
曜日・時限	水 1	単位区分	必,選択,選必
授業形態	講義	単位数	2
キャリア該当科目			
備考			
ディプロマポリシー	1. 幅広い教養と専門分野における知識・技能を身に付け、対象の多様な発達段階・背景などを多面的に理解することができる。		
授業の目的・到達目標	<p>&lt;授業目的&gt; 人は時間の流れの中で、からだばかりではなく、考え方や人間関係などにおいてさまざまな変化を経験する。そのような発達過程を概観し、特に乳幼児期の発達観および人間観を理解し考察することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>(1) 具体的に主に子どもの愛着の形成、遊びの意味、思考（認知）の発達、ことばの獲得に関する知識の習得ができる。</p> <p>(2) 特に、児童期の基礎作りとなる乳幼児期の日常のエピソードを中心に子どもの心が育っていく過程を理論と関連付けて提示でき、子どもの成長を説明できる。</p> <p>(3) また発達理論の基礎的な理解に加えて最新の発達研究を紹介することで、子どもの発達を多角的に見る方法論的/問題解決スキルを身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>子どもの発達に関するいくつかの側面ごとに以下のようなテーマで授業を展開する。</p> <p>第1回：クラス概要、子どもの発達と保育のつながり</p> <p>第2回：発達とは：生涯発達の視点(Ch1: 1)、発達の区分、発達心理学の歴史的流れ、発達における制約</p> <p>第3回：遺伝と環境、発達の原理(Ch1: 2)、関係の移行 (Ch1: 2, 5-6, 海外の保育 p. 21) (課題：「子どものころの探索レポート」の提出)</p> <p>第4回：愛着 1：愛着の発達(愛着理論)、個人差(愛着のタイプ)、文化差と愛着タイプとの関係(4カ国比較)(Ch2: 1)、養育態度の国比較</p> <p>第5回：愛着 2：ひとみしり(Ch2-2)、見知らぬ他者や物との関係づくり；社会的参照、視覚的断崖 (Visual cliff) (Ch2-3)</p> <p>第6回：遊びの発達、仲間関係、いざこざ他 (Ch2: 4-7)</p> <p>第7回：認知 1：ピアジェの発達理論 1 (二項関係から三項関係へ、保存) (Ch5: 1-2)</p> <p>第8回：認知 2：ピアジェの発達理論 2 (自己中心性, private speech) (Ch5: 3)</p> <p>第9回：認知 3：認知科学的アプローチ、新ピアジェ派、ビデオ (DVD「赤ん坊の考える力」)</p> <p>第10回：心の理論 (Ch5: 4)；心の理論の発達、誤信念課題、子どものうそ他</p> <p>第11回：ことば 1：ことばの機能、ことばの発達過程、(Ch6: 1-2)、ビデオ(DVD 言語、言語の発達、言語の理解)</p> <p>第12回：ことば 2：言語獲得理論 (スキナーとチョムスキーの理論)、ことばと思考 (ウォーフ仮説)</p> <p>第13回：ことば 3：対話の成立、scaffolding, 言語習得のピアジェとヴィゴツキーのアプローチ (Ch6:3-4) (課題：「子どもの行動観察レポート」の提出)</p> <p>第14回：音声言語と身体的発達、母子関係の変化と相互主体性の関係、ヴィゴツキーのZPDの重要性</p> <p>第15回：復習とディスカッション、まとめ 定期試験</p>		
学習演題 (予習・復習)	<p>1. 復習：子どもの発達と保育のつながりについてのハンドアウトのキーワードを使ってまとめ A 4 一枚に書く(90分程度)。</p> <p>2. 予習：教科書CH1-1を読み、概要をノートに書く 復習：ハンドアウトをまとめ、子どもの発達を概観する (予習・復習各90分程度)。課題のための親へのインタビューをし、レポートを書く (120分程度)。</p> <p>3. 予習：教科書CH1-2-6を読み、発達の原理のキーワードを書き出しておく 復習：子どもにとっての関係性についてハンドアウトをまとめる(各90分程度)。一回目のレポートを仕上げ提出(120分程度)。</p> <p>4. 予習：教科書CH2-1を熟読し、愛着理論を知る 復習：ハンドアウトから文化差と愛着タイプの関係をまとめる(各90分程度)。「ふらつと文京」に空き時間を使って行き、観察室での観察を開始する(120分程度)。</p> <p>5-6 予習：教科書CH2-2-3、CH2-4-7を熟読し、人見知りの理論の意味を把握・遊びの理解をする 復習：ハンドアウトから社会的参照等の新出用語の意味を確認・遊びの分類をまとめる(各90分程度)。観察録行(各120分程度)</p> <p>7-9. 予習：教科書CH5-1-3、CH5-4を熟読し、発達心理学の中心的テーマである認知発達について具体的なエピソードと関連付けて理解しておく (各90分) 復習：ハンドアウトの量も多いので用語の整理やピアジェの発達理論を段階別に書き出してまとめる(各90分程度)。課題レポート提出のための本読みを始める(180分程度)。</p> <p>10-12 予習：教科書CH5-4、CH6-1-2を熟読し、心の理論・ことばの定義や子どものことばの発達を概観する (各90分程度) 復習：ビデオやハンドアウトから心の理論・誤信念課題の関連性と言語獲得のメカニズムをまとめる(各90分程度)。観察記録をまとめレポートを書き始める(180分程度)</p> <p>13-14. 予習：教科書CH6-3-4を熟読し、ヴィゴツキーとは誰かを知る (各90分程度) 復習：ハンドアウトのピアジェとヴィゴツキーの比較を通してことばの発達をまとめる(各90分程度)。観察レポートを仕上げ提出(120分程度)</p> <p>15. 予習：今までのハンドアウトを全て見直し、不明点や疑問点を出す (90分) 復習：期末試験に向けてハンドアウトを見ながら、全ての単元のキーワードを中心にまとめの勉強を開始する(120分程度)。試験の傾向が発表されているので、それに合わせた試験勉強をする。例えば、記述式問題のための模範問題を自分で作成してそれに回答をする等の勉強方法がある(240分程度)。</p>		
授業方法	<p>パワーポイントのスライドを使って講義をすすめる。スライドに書いていることを学生が写す必要がないように章ごとにハンドアウトを配布する。授業中はスライドには書いていない話を多くするのでその話をよく聞いて理解することが重要。ビデオ聴取後にはグループ討論・コメントの提出があるので常にシラバスを見て予定をチェックしておくこと。2回のレポート提出に関しての詳しい説明は事前に授業中に行う。質問がある場合はいつでも授業中に受ける。または毎回授業終了時に出席カードの裏にコメント・質問等を書いてもらう。回答については、次週の授業最初に毎回フィードバックする。レポートはいつでもコメントと評価をつけて授業内で講評をし、学生に返却する。</p>		
成績評価の基準	<p>1. 2回のレポート提出 30% (レポート1では、養育者へのインタビューに関する質問事項の適切さ、事実と解釈の違いが意識して書かれているか、遺伝と環境等の理論との結びつきが考察されているかの評価基準で3段階評価をする。レポート2に関しては観察記録の書き方の適切さ、子どもの行動記録とその心の動きに対する考察がなされているか、子どもの発達を様々な角度からとらえられているのか、さらに授業でカバーしたことへの引用が適切であるか等を評価基準として7段階評価する) (3) レポートはコメントつけて返却・フィードバックを行う</p>		

	<p>2. 期末試験 60% (授業中にカバーしたこと、すべてのハンドアウトの内容についての持ち込みなしの筆記試験。例えば、発達理論の提唱者とその内容に関する知識が正確に理解できているか、用語の理解、記述式選択問題等で理解度を測る) (1) (2) 試験の返却と講評は個別に行う。</p> <p>3. ディスカッション・授業への参加度 10% (授業中の発言・毎回提出してもらったショートコメント・疑問点の内容による個別参加度評価、出席率のみを評価に含まない) (2)</p>
教科書	乳幼児の発達心理学(2004) 岡本依子、菅野幸恵、塚田-城みちる 共著. 新曜社. ISBN978-4-7885-0907-8 適宜教材を配布する。
参考書	初回にさらにレポートの書き方や提出期日などを加えた詳細なシラバスを配布する。
実務経験のある教員による授業	○
実務経験の内容	大学に併設している「保育実践研究センター」でセンター長として2010年～2017年度までセンターの運営・企画の責任者としての実務経験がある。その後も教員研究員としてセンターの主たる活動である子育て支援施設「ふらっと文京」での乳幼児との交流やその親への支援を引き続き行っている。
実務経験の当該科目への活用	「ふらっと文京」での経験から子どもの発達の具体例を授業内で挙げることができ、学生は理論と実践を結びつけることで、より発達理論の理解を容易にすることができる。また、「ふらっと文京」は学生の行動観察実習の場ともなっているため、子どもの発達についての実践的情報を学生と共有することにも活用されている。